

# 初めにワンダーありき

永田 円了



新約聖書、ヨハネによる福音書第1章、第1節には、「初めにコトバありき、コトバは神と共にありき」とある。本当にそうだろうか。伝えたいことが最初にあつて初めて、伝達の道具としてのコトバがその役割を果たすのではなからうか、というのが今回のテーマである。

人はワンダー（驚き、感動）があつて、初めてそれを何とか他者に伝えたいと思う。例えばワンダフル！（Wonderful!）というコトバは、驚き・感動があつて初めてコトバになるのである。

そして、本当に伝えたいことを、コトバで適格に表現できたとき、人は深い喜びを感じるものである。

## ワンダーはあるが、コトバがない

事例： 映画「明日の記憶」より



## ワンダーがなく、コトバのみが空虚に存在する

事例： 中国、青島の老人ホームの事例



## ワンダーも、コトバもない

事例： 動機のない犯罪、  
小説『異邦人』 アルベール・カミュ著

## ワンダーもあり、コトバもある

事例： 映画『フォレスト・ガンブ』より



## なぜ最近キレル子供たちが多いのか

コトバを使わないから／コトバを使わないと、どうなるか  
→ 思考が停止する

## 不条理の哲学：

不条理というコトバがあてはまるのは、この世界が理性では割り切れず、しかも人間の奥底には明瞭を求める死に物狂いの願望があり、この両者がともに対峙したままである状態についてなのだ。 アルベール・カミュ



## なかにし礼「NHK 課外授業」より



コトバというものは、相手を負かすとか、世の中をうまく生きていくためにあるのではない。コトバというものは、自分自身と向き合つて、自分自身をどうやって表現するか、というためにある。

コトバと格闘することによって、自分の中にある魂を活動させることができる。そうすることによって、人間はどんどん成長して行く